

シラバス

指定番号 _____
商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	①研修課程全体の概要が理解できる ②介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか実感する ③介護保険制度の概要を知り、介護職がどのような形でサービスを提供しているか理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	3	3		<講義内容> ・オリエンテーション この講義の概要について 終了認定までの説明 注意事項について説明する 受講生の自己紹介「何故この研修を受けようと思ったのか」 ・介護保険制度 介護保険の流れ 対象者・各サービス内容（居宅・施設） 介護保険外サービス <演習実施方法> 演習手法：「介護職の仕事とは・・・」について、受講生がイメージしていることを 5 人～6 人のグループでディスカッションを行う。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> ・上記演習結果から実際の仕事内容の説明を行う ・今後の介護人材キャリアパスについて <実習内容> 施設での実習 併設している老人保健施設において、現場での介護職の仕事内容を見学する
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	①介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であること ②自立支援が、どのようなことなのか理解する ③尊厳という概念に対する気づきを促す。 ④虐待・身体拘束について理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	3		<講義内容> ・人権・尊厳・虐待・身体拘束について簡単に説明 ・I C F ・QOL の考え方（生活の質）について ・オールドカルチャーからニューカルチャーへ ・事例 <演習実施方法> 演習手法：「尊厳とは何か」について、受講生がイメージしていることを 5 人～6 人のグループでディスカッションを行う。その結果を発表する
② 自立に向けた介護	4	4		<講義内容> ・自立（自律）を目指す介護について ・残存能力の活用 ・自己選択と自己決定、個別支援について ・家族利用者の思いと専門職としての考えの違い ・事例 <演習実施方法> 演習手法：「自立とはどういう事か」について、受講生がイメージしていることを 5 人～6 人のグループでディスカッションを行う。その結果を発表する 「自分に介護が必要になったら、どのような介護を行ってほしいか」、「してほしくない介護は・・・」B S 法で意見をだし、考え、意見をまとめ発表する
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> ・人権・尊厳・法律的な観点からの説明 ・身体拘束・虐待 ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・ノーマライゼーション
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性について気づく ②職務におけるリスクと対応策について理解する ③個別性を理解する。 ④他職種との連携の必要性を理解する ⑤生活を支える視点から支援を捉える			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の役割、専門性とは他 職種との連携	1.5	1.5		<講義内容> ・介護職の専門性 利用者主体の支援体制 自立した生活を支えるための援助 根拠ある介護 ・医療看護との連携 ・チームケアの重要性 ・事例 <演習実施方法> 演習手法：「介護職の専門性とは何か」「介護職が行う介護と 家族・ボランティア等が行う介護との違いはどこ にあるのか」等について、受講生がイメージして いることを 5 人～6 人のグループでディスカッ ションを行う。その結果を発表する
② 介護職の職業倫理	1.5	1.5		<講義内容> ・職業倫理について 専門職の倫理の意義 介護の倫理（介護福祉士として） 介護職としての社会的な責任 ・家族支援の在り方 ・プライバシーの保護・尊重 ・事例 <演習実施方法> 演習手法：事例を通して介護職としての倫理観についてグルー プでディスカッションする。
③ 介護における安全の確保 とリスクマネジメント	1.5	1.5		<講義内容> ・介護におけるリスクについて 事故原因 ・リスクマネジメントー報告書 ・感染に対する知識
④ 介護職の安全	1.5	1.5		<講義内容> ・健康障害ー健康管理（腰痛予防等） ・ストレスーストレスマネジメント ・感染症対策ー手洗い・うがいの励行 <演習実施方法> 演習手法：実際の手洗いを教室の洗面所を使い、実践してみる。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解			
指導目標	①介護保険制度の基本的な理解 ②障がい者自立支援制度の基本的な理解 ③リハビリテーションの概念について理解 ④利用者の生活を			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	3		<講義内容> ・介護保険制度 サービス利用までの流れ 財源構成 保険料負担 ケアマネジメント 代表的なサービスについて 予防重視型システム 地域包括支援センター 地域包括ケアシステム <演習実施方法> 演習手法：一つの事例を通じて介護保険を利用するまでのロールプレイを行う。
② 医療との連携とリハビリテーション	3	3		<講義内容> ・医療行為と介護 ・訪問看護 ・リハビリテーションとは ・在宅でのリハビリテーション ・施設でのリハビリテーション
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3		<講義内容> ・障がいの概念 ・I C F (国際生活機能分類) ・障がい者自立支援制度 介護給付・訓練等申請から支給まで ・日常生活自立支援制度
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	①介護をする上で必要不可欠であるコミュニケーションについて理解する ②実際の現場で実践できる技法の習得 ③記録の重要性と個別援助計画の概要を学ぶ			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義 ・コミュニケーション技法 言語的コミュニケーション傾聴・共感・傾き・おうむ返し 非言語的コミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーション 利用者の想い（心理的理解） 意欲低下の要因を考える 思いに共感する事とは・・・ 家族の想い（心理的理解） いたわりと励まし 信頼関係の形成 家族の価値観 ・アセスメント アセスメントとは何か 手法 ・利用者に応じたコミュニケーション手法 視力・聴力の障がいを持たれた利用者 失語症 構音障害 認知症 <演習実施方法> 演習手法：2 人 1 組となり時間ごとに傾聴・共感・傾き・おうむ返しなどの体験を行う その後、どのように感じたか、グループでディスカッションし、コミュニケーションの重要性について考える機会とする
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・介護における記録の意義 ・利用者の状態を踏まえた観察・記録 ・個別援助計画（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等） ・報告で必要なこと 報告・連絡・相談の留意点 5W1H ・ヒヤリハット報告書 ・ケアカンファレンスの重要性 <演習実施方法> 演習手法：利用者を映した動画を見、その状況を記録として残す。実際に記入する。発表する
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	当施設で作成したDVD
------------	-------------

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	①加齢・老化に伴う心身の変化・疾病について理解する 2 介護職として気を付けないといけない点について理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴う心と体の変化 と日常	3	3		<講義内容> ・老化に伴う体の変化（咀嚼機能、筋力・骨・関節の変化等） ・老化に伴う心理（喪失体験） ・上記の事による日常生活への影響 <演習実施方法> 演習手法：「老化」という言葉で、イメージすることを個々に B S 法で出し合い、その後、グループ内で K J 法 を使いまとめ、発表する 発表した内容から、そのような状況にある高齢者 が日常的に何に困っていると思うかディスカッ ションする。
② 高齢者と健康	3	3		<講義内容> ・高齢者の疾病と多い病気 ・日常生活の留意点 ・介護職として気を付けなくてはならないこと ・異常時の報告に必要なこと <演習実施方法> 演習手法：現在の自分の身体と高齢者の身体を比較し、どの ような点が違ってきているのか考えてもらう。 事例を挙げどのような点に注意しなくてはならな いのか、個々に考え、グループで発表し、自分の 気づきと他者の気づきを合わせ、留意点を考える。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	①認知症ケアの理念 パーソン・センタード・ケアについて理解する ②認知症の基本症状・BPSDについて理解する ③認知症を理解し、対応方法を知る。 ④介助者の気持ちを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	2.0	2.0		<講義内容> ・認知症ケアの視点 ・パーソン・センタード・ケア <演習実施方法> 演習手法：「あなたが認知症になったらどのような介護をしてほしいですか？」という内容で、個々が考えることをBS法で出し合い、その後、グループ内でKJ法を使いまとめ、発表する
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.0	1.0		<講義内容> ・認知症の種類（アルツハイマー型・レビー小体型・脳血管性前頭側頭型）とその特徴 ・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア） ・薬物療法
③ 認知症に伴う心とからだの変化と日常生活	2.0	2.0		<講義内容> ・認知症の基本症状・BPSD ・認知症利用者への対応方法 <演習実施方法> 演習手法：認知症体験を実施。2人1組となり、一人が目隠しをして認知症の人の役をする。もう一人は、全く声を出さず、認知症役の人を誘導する。 ※目隠しをするのは、認知症になると物の認識が目で見えていてもできなくなるので、その状態を作るという意味で目隠しをしている。介護者が、声を出さず、誘導するという事は、認知症の人は、説明されてもその意味が理解できていないという事から、このような設定で、認知症体験を行うこととする。
④ 家族への支援	1.0	1.0		<講義内容> ・家族が認知症を受容する過程の気持ち ・介護負担の軽減 <演習実施方法> 演習方法：「自分が家族だったら、どのような声掛けをしてほしいか」グループでディスカッションする。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	DVD「私は、どうなっていくの」クリスティーン・ブライアン著
------------	--------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	①障がい者福祉の基本的な考え方について理解する ②高齢者との介護の違いを理解し、対応方法を学ぶ			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1.0	1.0		<講義内容> ・ I C F の分類と考え方 ・ 医学的分類 ・ 障がい者福祉の基本理念（ノーマライゼーション）
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴関わり支援等の基礎的知識	1.0	1.0		<講義内容> ・ 身体障がい（視覚・聴覚・平衡障害・音声言語・咀嚼障害・肢体不自由・内部障害） ・ 知的障がい ・ 精神障がい（高次機能障害・発達障害・統合失調症） ・ その他の心身の機能障害
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1.0	1.0		<講義内容> ・ 家族への支援 ・ 障がいの理解 ・ 障がいの受容支援 ・ 介護者の負担軽減
(合計時間数)	3	3		
使用する機器・備品等	仙台研修センター発行DVD「家族とのかかわり方」			

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する ②実際の介助ができる ③就業時に必要な基本的な技術を習得する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	3	3		<講義内容> ・理論に基づく介護（ＩＣＦの視点に基づく生活支援） ・法的根拠に基づく介護 <演習実施方法> 演習手法：今までの研修の中で学んできたことを踏まえ「介護とは何か？」個々に考え、グループで共有する。 事例を基に、ＩＣＦに沿ってどのように考えるのか、個々に演習を行う グループ内で、どのように考えればよいのか検討する。
② 介護に関するこころのしくみの基礎知識	3	3		<講義内容> ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・心の持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 <演習実施方法> 演習手法：「心の持ち方が行動に与える影響」「からだの状態がこころに与える影響」について、個々に考え、ディスカッションを行う
③ 介護に関するからだのしくみの基礎知識	4	4		<講義内容> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクス ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <実技演習実施方法> 実技演習手法：講師が指導し、ボディメカニクスの体験を行う ファシリテーターがグループに 1 人ずつ付き、講師と共に指導を行う。
④ 生活と家事	6	6		<講義内容> ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 （生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性能動性を引き出す・多様な生活習慣・価値観） <演習実施方法> 演習手法：多様な生活習慣を理解してもらうため、個々の受講生の今までの生活習慣を明らかにし、個々に違うという事を実感してもらう。 内容としては、「洗濯物の干し方」「掃除の仕方」「肉じゃがの作り方」等々の内の 1 つを題材とし、個々に考え、グループ内でディスカッションする。
⑤ 快適な居住環境整備と介護	6	6		<講義内容> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障がい者特有の居住環境整備

				・福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内で多い事故 ・バリアフリー ・住宅改修 ・福祉用具貸与 <演習実施方法> 演習手法：実際の事例に基づき、その方にとってどのような居住環境が良いのか、皆で実際にベットやポータブルトイレを使い、考える。 条件が整わない場合（狭い場所・広すぎる場所等）も考える。
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・整容に関する基礎知識 ・身体状況に合わせた衣服の選択・着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義・効果 <実技演習実施方法> 実技演習手法：実際に利用者に声掛けをし、促すところからロールプレイを行う。（利用者の状況によって、パターンを変え行う。） ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗（残存能力の活用・ボディメカニクス） ・移動と社会参加の留意点と支援 ・褥瘡予防 <実技演習実施方法> 実技演習手法：立位をとることの身体の自然な流れを体験する。 移乗介助の具体的方法を実際に行う （車いすへの移乗・ベット車いす間の移乗・車いすトイレ間の移乗） 移動介助（車いす・歩行器・杖） それぞれの場面において利用者の状態（一部介助・全介助など）に応じて行う 利用者のペースで介助することを体験する。 体位変換の方法 ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・食事に関する基礎知識（食事をする意味） ・食事環境の整備（時間・場所等） （食事と姿勢・食事のケアに対する介護者の意識） ・食事に関連した用具・食器 ・食事形態とからだのしくみ（空腹感・満腹感・好み・咀嚼嚥下のメカニズム・低栄養の弊害・脱水の弊害） ・食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援方法 ・口腔ケアの定義 <実技演習実施方法> 実技演習手法：いろいろな食事形態を準備し、お互いに介助にて食事を摂取する。その際に、色々な条件を設定し、介助をするよう説明し、体験する。 ・自助具を使つての食事 ・トロミの付け方・ミキサー食の作り方 ・高齢者体験（白内障の方が食事を見ると等） ・口腔ケアの方法 ・バランスの良い献立の为一工夫 ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
⑨ 入浴、清潔保持に関連し	6	6		<講義内容>

たことろとからだのしくみと自立に向けた介護				・入浴・清潔保持に関連した基礎知識（体調確認・羞恥心や遠慮への配慮） ・入浴用具と整容用具の活用方法 ・入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ・全身清拭（身体状況の確認・室内環境の調整・使用物品の準備と使用方法・全身の拭き方・身体の支え方） ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ・陰部洗浄（トイレ・臥床状態） ・足浴・手浴・洗髪 <実技演習実施方法> 実技演習手法：実際の浴槽を使い入浴介助を行う。 清拭・手浴・足浴・洗髪（ベッド上）など用具を準備するところから実施するまでを行う。 ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・排泄に関する基礎知識（排泄とは・身体面での意味・心理面での意味・社会的な意味・プライド・羞恥心・プライバシーの確保・オムツは最後の手段・オムツ使用の弊害・排泄障がい日常生活に及ぼす影響・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連） ・排泄環境整備排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 ・便秘の予防（水分摂取量の保持・食事内容の工夫・腹部マッサージ） <実技演習実施方法> 実技演習手法：利用者の状況によるトイレ介助を実際に行う。 オムツ交換を実際に行う（模擬） 受講生にリハビリパンツを着用して、半日過ごし、感想を聞く（できればその中で排泄をする） 排泄がほとんどできないのが現状である為、何故できないのか考え、上記課題に結び付ける ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・睡眠に関する基礎知識（高齢者の睡眠携帯・安楽な姿勢・褥瘡予防） ・睡眠環境と用具の活用方法（安眠の為の介護の工夫・環境（温度や湿度・光・音・よく眠る為の寝室） ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 <実技演習実施方法> 実技演習手法：受講生それぞれが、睡眠をとるに当たって、どのような環境で寝ているか、実際に行う。 個々に生活習慣が違い、その人にとってどのような環境が良いのか考える。 ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程（老衰） ・「死」に向き合う心の理解（終末期ケア、他職種間の情報共有の必要性） ・苦痛の少ない死への支援 ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 <演習実施方法> 演習手法：喪失体験を実施する。受講生自身が重要だと思っていることを書き出し、一つずつなくなっていくとどのような気持ちになってくるのか感じることを実践する。
⑬ 介護過程の基礎的理解	5	5		<講義内容> ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ ・アセスメントの重要性

				＜演習実施方法＞ 演習手法：事例に基づき介護過程を作成する ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
⑭ 総合生活支援技術演習	6	6		＜講義内容＞ ・在る状態の利用者を想定し、利用者の理解を促す。 ・生活支援を提供する事の説明 ・利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点 ＜演習実施方法＞ 演習手法：事例の提示・要因の分析・適切な支援技術の検討 支援技術の演習・支援技術の課題 ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
(合計時間数)	75	75		

使用する機器・備品等	車椅子・ベッド・手摺・マット・布団・ポータブルトイレ・洗面器・バケツ・タオル・シャンプー・石鹸・バスタオル・ゴミ袋・食事一式（食形態の異なるもの）・介助用食器一式・簡易浴槽（施設使用） オムツ一式（リハビリパンツ・パット・従来型オムツ等）・介護下着一式 サイドテーブル・シーツ・枕・シャワーチェア・体温計・バスボード・浴槽台
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：医療法人マックシール

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	①研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことのまとめを行う ②研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶことを受講者自身に表出・言語化させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2.0	2.0		<講義内容> ・介護職としての基本的姿勢 ・利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点 ・最新の情報・今後の課題 <演習実施方法> 演習手法：「研修を通じて学んだこと」「今後継続して学ぶこと」について個々にＢＳ法で出し合い、その後、グループ内でＫＪ法を使いまとめ、発表する ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
② 就業への備えと研修終了後における実例	2.0	2.0		<講義内容> ・現場で働く職員の体験談 施設・在宅 <演習実施方法> 演習手法：受講生個々の今後について個人面談を行い、受講生の今後の希望に沿って、受講生自身が、次の日から何かができるよう課題を見つけるよう支援する。 ※ファシリテーターがグループに一人ずつ付き、指導を行う。
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。